

「京都マラソン2015応援大使」出走者発表記者会見コメント（要旨）

【マラソン出走！】

【山中 伸弥さん】（京都大学 iPS 細胞研究所所長、京都市名誉市民）



2012年の第1回大会に参加させていただいた際には、自己最高タイム（4時間3分19秒）を出すことができました。その後、ノーベル賞を受賞し、仕事や海外出張で参加できませんでしたが、今回、3年ぶりに京都を走らせていただきます。

普段、鴨川で練習をしているので、いわばホームグラウンドともいえるコースを走るようになります。自己記録の更新を目標にがんばりたいと思います。毎年、年を取っていますので、簡単ではありませんが、ベストを尽くしたいと思っています。

また、私にとってマラソンは、チャリティ文化、寄付文化を日本で少しでも広めたいという思いの一環であります。京都マラソンでも、40万人以上という、たくさん沿道の方に応援いただきますが、そういった方々にも、チャリティということを知っていただき、少しでも、チャリティの広がりに貢献できたら、と思っています。

【山田 幸代さん】（プロ・ラクロス選手、京都産業大学出身）



私は、オーストラリアでラクロスをしておりますが、海外から日本に帰ってきたときに、このように、日本の古都・京都で思い切り走らせてもらえるというのは、楽しみで、すごくわくわくしてたまりません。来週、日本でのシーズンが終わったら、2月まで走り込みをしていきたいと思っています。

開催していただく皆様、ボランティアの皆様、ランナーの皆様と、思い切り楽しみながら、完走したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

【ペア駅伝出走！】

【早狩 実紀さん】（京都光華 AC 所属陸上競技選手、全国女子駅伝京都チーム監督）



この大会の応援大使として、前々回（京都マラソン 2013）は、スタートから中間点までを走らせていただいたのですが、今回は、奥野さんとペア駅伝で、42キロを走らせていただくことになりました。

私は、この都大路は、都道府県対抗女子駅伝などで、随分長い間走ってきたのですが、その一部を、この大会でも走るようになります。しかし、この大会には、16,000人の参加者の皆さんや、それと同じくらいの数の大会を支えてくださる皆さんと、京都のまちを楽しむという、すごく違った意味での楽しみがあります。

京都は、ロードレースや駅伝の文化の発祥の地でもありますし、皆さんの関心もすごく高いので、そういう皆さんたちと、この大会を楽しみながら、走ることの素晴らしさを伝えていけたら、と思っています。

【奥野 史子さん】（スポーツコメンテーター、京都市教育委員）



私は、今回、ランナーとして、初めて参加させていただくことになりました。もともと、走ることは、どちらかというと苦手。水の中が専門なので、なかなか重力と戦うのは大変なのですが、大好きな、生まれ育ったこの京都のまちを、16,000人のランナーの方々と一緒に走れることを、楽しみにしております。

今回は、強力なパートナーで、大学時代からの同級生である早狩さんと走ります。めちやくちや速く帰って来られると思いますので、足を引っ張らないように、練習してがんばりたいと思います。

【島袋 勉さん】（両足義足のランナー）



私は、突然事故に遭って、両足がなくなってしまい、ほんとに歩くこともできないという状況の中で、自分の中で苦手なこと、できないことをなくしたい、という思いでマラソンを始めました。歩くのが非常に辛いので、それを避けていると、自然に退化して、何もできなくなっていくことに気が付いたので、フルマラソンに出ようという目標を立てて、歩く練習を始めました。どうしても痛みが出るので、苦しいんですけど、そういう中でなんとか、マラソンに出場することができるようになりました。

私の出身地・沖縄では、戦争で古い建物がほとんどない状況なので、こういった京都の歴史ある建造物があるまちのなかを走ることができるというのは、非常に嬉しいことです。再び、京都のまちを走るのを楽しみにしています。

今回も一生懸命走りますので、よろしくお願いいたします。